

第47回(2024年度)全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場 【2025/3/30】

B3位

大垣市水球クラブ

13

2	—	2
4	—	1
2	—	3
2	—	4
3	PSO	4

14

長崎水球クラブ

審判： 中村 友美
城之下 智喜

この試合のプレー集計

大垣市水球クラブ	19	SH数	22	長崎水球クラブ
	4	速攻数	2	
	7	ST・SB	7	
	7	SH・P誘発アシスト	6	
	38%	GK阻止率	33%	
	7	EX反則数	9	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

夏JO3位決定戦と同じカード。夏JOは僅差で大垣市が勝利したが、長崎はリベンジを果たせるか。両チームともにエース(大垣市④野村、長崎⑦荒木が左利きだけに、右サイド攻撃への対応力が勝負の分かれ目となるだろう。

<1P>

大垣市がセンターボールからの攻撃を⑩池田が右サイドから決めると、対する長崎も即座に⑤濱口がシュート・リバウンドを押し込んで同点。その後も大垣市と長崎が1点ずつを取り合って、大垣市2-2長崎で第1ピリオド終了。予想通り、大垣市④野村、長崎⑦荒木というサウスパー選手中心の展開となり、両チームともにゴール前での動きが少ない状況が続いた(大垣市2-2長崎)。

<2P>

ピリオド序盤は一進一退の攻防が続いたが、3:26に大垣市④野村が6mSHを決めると、大垣市ペースに。長崎はゴール前で退水攻撃のチャンスを得たが、右サイドに位置取りした長崎⑦荒木が痛恨のパスミス。それを起点に大垣市が強襲。ゴール前で④野村が退水を誘発し、⑭棚瀬が決めて2点差に広げる。焦りが出た長崎は直後にも痛恨ミス。リードブレイクした大垣市④野村が右サイドのドライブ攻撃を仕掛けてきた⑦高橋にタイミングいいパスを繰り出し、⑦高橋が右サイドから決めて3点差となった。左利きの中継プレー見本となるような展開で、完全に大垣市ペース。大垣市6-3長崎で前半を折り返した。

<3P>

大垣市が3点リードして迎えたピリオド最初の大垣市攻撃時で反則。そこを起点に長崎の反撃が始まる。⑤濱口が左サイドから決めて長崎が2点差に迫る。このピリオド中盤まで得点の応酬となったが、最後には大垣市が得たペナルティSHを長崎GK①村島が好セーブ。それを起点に長崎③中島がセンターSHをブザービートで決めると、一気に長崎側が盛り上がり第3ピリオド終了(大垣市8-6長崎)。大垣市が2点差で優勢であるが、長崎には勢いが出てきた。この先の変化が予感される。

<4P>

2点差をどう詰めるかは負けているベンチとしても考えどころ。それ以上に難しいのが2点差リードしている側のベンチ。双方、どういう指示を出すかは非常に魅力的だ。負けている側としては一気呵成に追いつくよりも、ピリオド後半でペースを上げて追い込む展開の方が相手側は嫌がるものなので、そういう指示を出せるかどうか。勝っている側は、1点でも多く積極的に仕掛ける指示がいいのか。双方ベンチの駆け引きが見物だ。結果論で言うと、長崎は後半型を選択。序盤はじっくりチャンスをうかがい、ピリオド中盤に大垣市側の退水シュートミスに乗じての退水誘発。そこを確実に長崎③中島が決めて1点差に迫る。直後に大垣市③大橋が決めて2点差としても、長崎側の意識は「行ける」。その通り、すぐに③中島がセンターで決めて再び1点差に迫り、大垣市側の焦りを状況を作り出した。案の定、大垣市側はイージーなパスミス。ここは何とか対応したものの、残り時間1分。ここでも大垣市側にパスミスが出て、そこから長崎⑤濱口が退水を奪って自ら得点して、とうとう同点に。その直後も動揺した大垣市側にパスミス。そこを突いて長崎⑤濱口の速攻SHでとうとう逆転(大垣市9-10長崎)。ここで大垣市側選手も開き直ることができ、再開から⑭棚瀬がセンターSHを決めて(4P0:06)、大垣市10-10長崎で勝負はPSO戦へ。実は1点差に迫られた残り時間1分の頃、大垣市側のエース④野村は前線に出ようとせず、「専守防衛」ラインに位置する選択をしていた。チーム全体が浮足立ってきたので、自身が前線に位置すると無理な状況でも自分にパスしてしまっただけを掘るだろうという判断から、自らの判断で後方に下がったように思えた。結果は、そのことで誰にパスすればいいのかで混乱が生じてのパスミス→長崎怒涛の攻撃という結果となってしまった。このチーム意思の乱れは大垣市側の攻撃時に起きていたものなので、ベンチ側が最後のタイムアウトを取って明確な指示を出すべきだった場面だ。逆に言えば、2点差ビハインドでの長崎側がピリオド後半に勝負をかけるという選択が大垣市側の焦りを誘った形となった(意図的だったかどうかは不明：戦評者ならそういう指示を出す)。

結果的にPSOも長崎の勢いは止まらず、長崎が第3位、大垣市が第4位となった。小学生区分の優勝といい、中学生区分でも躍進が顕著な長崎。ジュニア水球全体の盛り上がりはこれからの注目の的になっていくだろう。